

怪獣 母ちゃん 奮闘日記

4人の子どもを育てる母
ちゃんが、家族、子育て、
自分のことなど日常のあ
りのままをつづります。

書く人／辻登志江さん

夫と三男一女(1号ゆいた7歳、2号じんと5歳、3号みつる4歳、4号しほ2歳)と暮らす。自分たちの食べたいものを一年分作ってみたいという思いで始めた「つながり農園」主宰。秋の収穫と植え付け、駄菓子づくりシーズン真っ只中。

怪獣先生から学んだ、母ちゃんの幸せ

昨年の春、怪獣3号がひどい皮膚炎を起こした。常にへの字眉毛の泣き顔。人から「かわいそうに」って言われてピイツ。夜中は特に「痒いよ、痛いよ」ってのたうちまわる。なんでなんで、原因は何？ すつとよくなる薬とかないの？？ 母ちゃんも辛くて、様々なドクターや皮膚炎経験者に相談した。意見は聞けば聞くほど迷う。検査ではアレルギー反応は出なかった。そんな中、「皮膚から症状を出さない身体作り」という講座があつて受講した。身体はいろいろなものを取り入れて排出する。排出がうまくいかないと皮膚から出すんだそう。それが皮膚症状で、皮膚症状とお手当にも段階があるらしい。

なるほど、3号をもう一度観察してみた。皮膚のジユクジユクしているところから黄色い汁が出てる。汗や涙や尿便が少なく、不快な体臭口臭だ。まさに、排出がうまくいかずに皮膚からの段階かもしれない。そこでまずは「身体にとって負担なものをできるだけ入れず、体内から排出しきる」をやってみることにした。身体に入れるものではなく、特に食事に気を遣った。試行錯誤して最終的にはご飯と味噌汁と発酵食品の食卓が3号には合ったようだった。徐々に黄色い汁が出なくなり、約3カ月で肌も回復して痒みが消えた。この頃から快便で体臭も気にならず、お風呂も痛がらずに喜んで入るようになった。心底

ホツとしたのを覚えている。

でも、実は今回の大きな学びは次の2つだった。1つは、母ちゃんの言葉と立ち居振る舞いの子どもへの影響。母さんがシユンとしていると3号自身が母さんを悲しませちゃう悪い子って思ってた泣き顔だったけど、ドンと構えて嬉しそうにしている居場所を見つけて誇らげで回復も早いっていうこと。もう一つは、楽しいことをしている時は症状なしってこと。こども園で「遊んでいる時には笑ってる」っていう保育士さんの言葉が今でも忘れられない。病は気から、幸せも気から、なのかな。

以来、怪獣達が今日も食べてる遊んでる寝てる揃ってるってだけで「すべてオツケー、幸せ」皆さんありがとー」って思えるようになった母ちゃんです。

怪獣道は、未知で果てしない。



好きなことやできることと値段を自分で提案して仕事をし、母ちゃん「ありがとう」と共に小遣いを受け取って貯金箱に入れる3号。「嬉しい楽しいありがたいって心から思っていると、お金も友達もチャンスもやってくるんだよ」って子どもたちに言い聞かす母ちゃん。3号の皮膚炎のおかげかな。